

## 学位論文概要「環境情報からのメッセージ」

名前	指導教員	論題	論文要約
岡野隆宏	松田裕之	わが国の国立公園における多元的な価値の共有による地域と協働した保護管理のあり方に関する研究	本論文では、日本の国立公園の最初の指定の際の議論を振り返るとともに、世界遺産と生物圏保存地域のわが国への導入事例を踏まえ、地域関係者と協働した日本の国立公園の管理運営のあり方について論じた。日本の国立公園の協働型管理運営は、地域の持続可能な発展を目指すべきであり、それを達成するためには、まず、地域の多様な価値及び社会経済と風景との間の相互作用を理解すること、次に、それらを関係者と共有し、将来的な地域社会経済の具体的な像を含む複数の目標を設定することが重要である。
佐々木 章晴	松田 裕之	北海道根釧地方における土地利用の変化と酪農生産システムが 河川流域の物質動態と野生生物および水産業に与える影響	北海道東部の根釧地方は、全域が火山性土であり夏期冷涼である。当地域は水産業および草地酪農が2大産業である。しかし1950年代以降の草地開発および乳生産性向上のための購入飼肥料の増大は、土壌中Alを溶出させ、草地植生悪化、水産・水生生物へ負の影響を与えている。この対策として、河畔林復元、購入飼肥料削減、草地土壌の改良が有効であり、対策の実施について、地域住民間で合意形成を得る場が必要と考えられた。
宮前 史子	安藤 孝敏	自記式認知症チェックリストの開発	本研究では、地域に暮らす高齢者が自分自身で認知機能低下や生活機能低下に気づき、必要なサービス利用につながるようにするための自記式認知症チェックリストを開発した。その結果、地域在住高齢者のデータをサンプルに、2因子からなる10項目のチェックリストが作成され、内的信頼性、因子的妥当性と、精神科医による認知症診断を外的基準に用いて弁別的妥当性と併存的妥当性が確認された。本チェックリストは本人や支援者の気づきを促し、情報提供や受診勧奨、診断へのアクセスを促進するためのツールとして意義あるものと考えられる。